

つどい

詳細は未定の部分もありますが、ぜひ大勢のみなさんのご予定の中に入れていただきたいと思いますので、お知らせします！

障害児・者の暮らしの場の在り方を考える —津久井やまゆり園の教訓から学ぶ—

日時：2017年11月1日（水） 10時30分～13時

場所：大阪市立社会福祉センター 第一会議室（3階）

（裏面に地図）

参加協力金：500円

【シンポジスト】

特別ゲスト

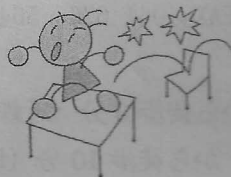
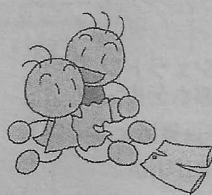
大月 和真 氏（津久井やまゆり園 家族会会長）

「津久井やまゆり園は
私たちがやっとたどり着いたかけがえのない家だ」

・ロングショートを経験して（調整中）

・施設職員の立場から（調整中）

・コーディネーター（調整中）

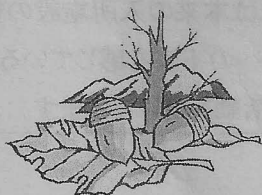


「津久井やまゆり園」（神奈川県相模原市）で昨年7月に発生した殺傷事件の後、当初神奈川県は現地で再建を決めました。しかし、施設否定を唱える人たちが反対の行動を起こし、県は、「審議会」を開いて「再検討」を開始。この中で、大月和真 家族会会長は、「津久井やまゆり園は私たちがやっとたどり着いたかけがえのない家だ」と早期の現地再建を訴えられました。

国の地域移行政策の下で施設建設が抑制され、家庭での支援が困難な人やグループホームでは対応できない重い障害のある人たちは行き場がなく、ショートステイを転々とする、人権侵害とも思われる実態が続いています。地域で暮らし続けられることはみんなの共通の願いです。一方で、施設を希望する人たちは増加の一途をたどっています。

この度、津久井やまゆり園の家族会会長の協力を得て「施設とは何か」「なぜ施設が必要なのか」について考え、障害者・家族の実態を報告し、「暮らしの場」の在り方について共に学び、考えたいと思います。

多くの皆さんの参加を期待しています。



主催：生活の場を考える大阪こんだん会
大阪障害児・者を守る会

連絡先：06-6697-9005（大阪障害者センター内）
558-0011 大阪市住吉区荻田5-1-22

交通アクセス

※駐車場はありません。公共の交通機関をご利用下さい。

この中で「子どもの自立(自律)を実現するために、何が必要なのか」「まず、親が子ども(障害者)から自律することではないか」と学習やこんだんを積み重ね、生活の場のあり方を学び、施設拡充等の活動にも参加してきました。しかし、生活の場に対する最近の状況は本来の入所施設の役割を軽視した安易な地域移行のみが強調され、家族介護に限界や将来への不安を感じている多くの親たちの実態は無視されたままです。こうした現象を打開するために活動を続けています。